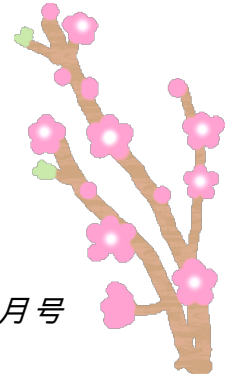




21世紀の森と広場



# とんぐり



パークセンターだより 第113号 2012年2月・3月号

## 水辺の忍者「サンカノゴイ」たち

自然解説員  
なおい 直井 ひろし 宏

今シーズンは、晩秋から初冬にかけて、寒暖の差の大きな日が続いたためか、ツグミ科の「ツグミ、シロハラ、アカハラ」やアトリ科の「シメ、マヒワ」、ホオジロ科の「カシラダカ、オオジュリン」等の渡来<sup>とらい</sup>の遅れが目立ちました。

さて今は冬枯れの広がる水辺も「サンカノゴイ」たちが繁殖に帰って来る5月には水田を含め緑一色のたたずまいになります。

「サンカノゴイ」コウノトリ目サギ科 約L70cm <sup>ぜつめつきく</sup>絶滅危惧IB類(EN) <sup>きゅうほく</sup>旧北区系

生息分布は非常に広くアフリカ、ヨーロッパを経て中国東北部から南東の外れに位置する日本迄が繁殖の地域になっています。繁殖地周辺では留鳥(北海道では夏鳥)で、関東地方以南では越冬する個体もいます。大きさの目安として



夏鳥の「チュウサギ」68.5cmより少し大きく、ヨシ原に巣を作り、昼間よりも夕方から早朝にかけての方が活発になり、近くの水田や水辺で小魚、エビ、カエル、昆虫を捕食します。鳴声は、繁殖期は夜間だけでなくボウーと繰り返し

鳴き、ウシガエルと間違えられる事があります。

「サンカノゴイ」は他のサギ類に比べて幅の広い翼を持っていますので、営巣している密集したヨシの中からも急に飛び上がり天敵の攻撃から逃げる事が出来ます。サギ類ではありませんが、キジ科の「キジ」は体に比べて短く幅の広い翼を持っているため茂った草地や、<sup>やぶ</sup>藪からより早く飛び上がる事が可能です。

サギ類の特徴であるゆっくりとした羽ばたきは優雅で、特に「サンカノゴイ」は全身を淡黄褐色で包み更に黒茶褐色の<sup>たんこうかつしよく</sup>従斑で飾った姿の<sup>くろちやかつしよく</sup>飛翔は<sup>じゅうはん</sup>国宝級の<sup>ひしやう</sup>金<sup>きん</sup>屏風が空に舞っている様で素晴らしいです。現在日本の「サンカノゴイ」の繁殖地はわずか数カ所で、千葉県<sup>くず</sup>の北西部にある場所が昨年<sup>きしやうしゆ</sup>の3月11日の地震で堤防が崩れ繁殖に影響した事は非常に残念です。

「21世紀の森と広場」では、この<sup>きしやうしゆ</sup>稀少種の「サンカノゴイ」を越冬期の2月、3月と、繁殖地へ戻る途中の4月に自然観察舎と千駄堀池の放流塔から見る事が出来る時があります。

### 「ヨシゴイ」コウノトリ目サギ科 L 36 . 5 cm 夏鳥 準絶滅危惧種 (NT)



生息分布は東南、東北アジアからミクロネシアで、熱帯地方では留鳥です。日本で生息するサギ類で最も小さく、夏鳥として5月中旬にほぼ全国に渡来して水辺の湿地、水田、ヨシ原で繁殖します。巣は「ヒメガマ」などが生えるある程度水深のある場所に作ります。雄は全体に淡黄褐色で、額から

後頭と<sup>かざきりばね</sup>風切羽根の黒が目立ちます。雌と幼鳥は栗褐色で、喉から胸にかけて5本ある従斑が良く目立ち識別のポイントとなります。「ヨシゴイ」は非常にタフな鳥で、昼夜活発にヨシ原の上など低く飛び交い、魚、エビ、カエル、昆虫など捕食します。

「21世紀の森と広場」では年によって違いますが、越冬地に向かう8月の下旬から10月の中旬ぐらい迄に立ち寄る個体を見る時があります。

「オオヨシゴイ」コウノトリ目サギ科 L 39 cm 夏鳥 絶滅危惧種 I B類 (EN)

生息分布はロシア東南部、中国東北部、東南部、東南アジアで、日本には夏鳥として、5月上旬に本州中部以北から北海道に少数が渡来して局地的に繁殖します。識別のポイントは「ヨシゴイ」よりも赤褐色味があり風切羽の黒はなく、雄は喉から胸にかけての従斑が1本であるのに対して雌の方は5本あり、背中の白斑も多いので良く判ります。「オオヨシゴイ」の巣は広いヨシ原の乾いた地上に作り繁殖します。昼間はヨシの中などであまり動かず、夕方から朝にかけて前2種と同じ餌を捕りにヨシ原の上などを低くゆっくりの羽ばたきで飛びます。



上記サギ科3種の共通の擬態行動は天敵などが接近し危険を感じた時、<sup>くちばし</sup>嘴を上に向けて体をまっすぐに伸ばして周囲の物に似せて逃げる、まさに水辺の「忍法葉隠の術」の擬態です。他にもサギ科の「ササゴイ」や水辺のサギではないのですが「ミゾゴイ」も共通行動をします。

旧北区系・・・日本列島は南西諸島のトカラ以南を除く全域が旧北区生物地理に含まれます。千葉県印旛沼の同じ場所で繁殖するサギ科のサンカノゴイは旧北区系でありヨシゴイとオオヨシゴイは<sup>とうしょ</sup>島嶼系の鳥となります。本州と北海道を分ける津軽海峡の重要な境界線は、<sup>ていしょうしゃ</sup>提唱者の名にちなんで「ブラキストン」線と呼ばれ、多くの動物がこの線を境に以北を大陸系と分類されます。

# た お 手折れない木 ジンチョウゲ

みどりの相談員  
のぐちのりつぐ  
野口宣二

日本へは室町時代に原産地中国から渡来し、早春の花として広く親しまれている。この花の香りはジンコウ（沈香）とチョウジ（丁字）の香りにたとえられたものといわれ、遠くにまで漂うので千里香の名でもよばれている。<sup>1</sup>雌雄異株の植物ですが、日本へは雄株のみが移入されて栽培が各地に広がっています。「ジンチョウゲ」が和名で「沈丁香」は中国名であり、庭木や生垣の列植などに用いられていますが、樹皮の繊維がたいへん強く手折りにくいので、花ドロボーもあきらめてしまうほどである。北国の樹林下に多いオニシバリ（別名ナツボウズ）と同じくミツマタの仲間の植物である。3～4月、枝先に香りのよい花を10～20個、頭状につける花には花弁はなく、肉質の筒状のガクの先が4裂してひろがり花弁のように見える。外側が紫紅色のものが一般的だが、他に白花のものや葉に白斑の入ったフイリジンチョウゲもある。

丹精こめて栽培していたジンチョウゲが急に枯れたという話をよく聞きますが、このほとんどが排水不良が原因と思われる。大雨のあとの溜り水のある土地や低湿地での栽培はさけるべきである。<sup>2</sup>紋羽病にも弱く、根の発育が悪いとき



ジンチョウゲの花

に併発することが多いので、水はけのよい南むきの傾斜地等が好まれます。

移植の適期は新芽の出る直前の開花どきがよいでしょう。梅雨の頃、<sup>3</sup>新梢を切ってさし木繁殖が容易にできます。庭木としてだけでなく、小鉢づくりで楽しんでもいかがでしょう。

<sup>1</sup>雌雄異株 植物で、雌花と雄花を別々の個体につけること

<sup>2</sup>紋羽病 植物の根を腐らせて、枯死させる病気

<sup>3</sup>新梢 今年伸びた枝のこと





# パークセンター2月・3月の催し物



講座名	日時	定員	講師	費用	受付
園芸教室「落葉果樹の剪定」	2月18日(土) 13:30から15:00	45名	みどりの相談員 野口宣二氏	無料	1/15から
バードウォッチング(雨天観察舎)	2月19日(日) 10:00から11:30	25名	自然解説員 直井宏氏	無料	1/15から
樹木ウォッチング「冬芽の観察(雨天時は屋内)」	2月26日(日) 10:00から11:30	25名	自然解説員 藤田泰氏	無料	1/15から
バードウォッチング(雨天観察舎)	3月11日(日) 10:00から11:30	25名	自然解説員 今村裕之氏	無料	2/15から
園芸教室「母の日に贈るつるバラのあんどん仕立てに挑戦」	3月24日(土) 13:30から15:00	24名	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	2000円	2/15から
みどりの講習会「ターシャ・テューダーの庭を訪ねて」	3月25日(日) 13:30から15:30	60名	ハーブ研究家 桐原春子氏	無料	2/15から
植物ウォッチング(雨天時は屋内)	3月31日(土) 10:00から11:30	25名	自然解説員 加藤裕一氏	無料	2/15から
夏野菜の作り方	3月31日(土) 13:30から15:00	45名	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	2/15から

すべての催し物が、予約制となっております。電話、または直接パークセンター窓口でお申込下さい。

## ～自然観察舎 湿地の観察会のご案内～

実施時間	実施日
10:00～10:30	土曜日 日曜日 祝日
11:00～11:30	
13:30～14:00	
14:30～15:00	

### 【定員】

先着25名(当日受付)

### 【受付】

自然観察舎窓口

### 【電話】

047-340-4140



## みどりの相談室



パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738

ハナミツバチ

# アリとアブラムシ、それとクサカゲロウ

- ヒツジの皮をかぶったオオカミ?! -

自然解説員  
はやし まさゆき  
林 正幸

アブラムシはいろいろな草木につき、クダのような口をさして植物の汁を吸います。このため、家庭菜園や園芸をやる方からは、めっぼう嫌われている害虫のひとつです。アブラムシの多くの種は、おしりから甘い蜜<sup>みつ</sup>を出します。この蜜はアリの大好物で、多くのアリがアブラムシをおとずれます。このことから、アブラムシは別名“アリマキ”ともよばれます。アリはアブラムシから蜜をもらうかわりに、アブラムシを食べる外敵を追い払って保護したり、アブラムシの身のまわりをきれいに保<sup>たも</sup>ったりします。アリとアブラムシのような、異なる種間の持ちつ持たれつ<sup>きょうせい</sup>の関係は、いわゆる“共生”といえます。この関係は、ヒツジと羊飼いの関係に例えられることがしばしばあります。「21世紀の森と広場」では、カラスノエンドウやヤブガラシ、ヤナギなど、さまざまな植物上でこのような共生関係がみられます。



アブラムシの出す蜜をなめるアリ

いっぽうクサカゲロウは、成虫の体長が2cm足らずの緑色の昆虫です。あまりなじみのない虫かもしれませんが、私たちの身近な環境にも多く生息しています。当公園には、少なくとも10種類前後のクサカゲロウがすんでいると思われます。クサカゲロウの幼虫は、他の昆虫を食べる、アブラムシの外敵です。大きなアゴでアブラムシをつかみ、針のような口を体に刺して体液を吸います。そして、カオマダラクサカゲロウやフタモンクサカゲロウなどの一部の種では、食べたアブラムシの皮などのゴミを背中に載<sup>の</sup>せるといふ、非常に変った行動を示します。一見、植物の上を小さなゴミの塊<sup>かたまり</sup>が動いている



カオマダラクサカゲロウのメス成虫

ように思えますが、よく見てみるとゴミを背負ったクサカゲロウの幼虫であることがわかります。クサカゲロウの幼虫には、体にかぎ状の毛のような突起とつきがたくさん生えており、その毛にからませるようにゴミをたくさん背負います。アリが保護するアブラムシの集団付近をよく観察していると、アブラムシの皮などのゴミを背負ったクサカゲロウの幼虫ひんぱんが頻りに観察されます。そして、そのアブラムシを襲おそう様子がみられます。アリはアブラムシの外敵を追い払うはずなのに、なぜクサカゲロウの幼虫はその場に留まることができるのでしょうか？



クサカゲロウの幼虫

- (左) ゴミがない時。体に毛がたくさんはえている。
- (右) ゴミを背負ったとき。毛にからませるように背負っている。

実は、背中に背負ったゴミにその秘密かくが隠されていることが最近の研究でわかりました。アリは、アブラムシの天敵そうぐうと遭遇すると、噛み付くなどの攻撃こうげきをしかけて撃退げきたいします。しかしクサカゲロウは、背中のゴミが鏡よるいのような役割をになっており、アリの攻撃によるダメージを受けにくくしているのです。また、クサカゲロウはアブラムシの皮を背負っていると、アリからほとんど攻撃されなくなります。これは、アリの他者認識たしやにんしきの仕組みが影響えいきょうしています。私たち人間は、他の人や物を主に目で見えて判断しますが、アリは主に触覚しょつかくで触れることでアブラムシやクサカゲロウなどを認識します。アリがクサカゲロウの幼虫に出会ったとき、クサカゲロウの幼虫がアブラムシの食べカスせおを背負うことにより、アリはクサカゲロウに触れられず、アブラムシの食べカスに触れることとなります。これにより、アリはクサカゲロウをアブラムシの外敵と認識でき



アリとクサカゲロウの幼虫

背中にはアブラムシの食べカスをのせている。

なくなってしまう、攻撃しなくなるようです。これは、アリの他者認識の仕組みを逆手にとった戦略といえるでしょう。

例えるならば、オオカミがヒツジの皮をかぶり、羊飼いの目をあざむき潜んでヒツジを喰うという、なんとも巧妙な手段です。このようにクサカゲロウの幼虫は、餌食であるアブラムシの死体を背負うという、なんとも奇妙な、それでいて合理的な方法により、アリの襲撃をかわしてアブラムシを襲うのです。

## ドンちゃんの記念スタンプコーナー

このわくのなかにスタンプをおしてね！



### ご来園の皆様へお願い

安全、快適に公園を利用していただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。**自転車**（キックボード含む）の乗り入れ、**ペット**の持ち込み、**テント**設営、**魚釣り**（たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可）などは禁止となっています。また**動植物の採集**や鳥などへ**エサをやる**こともかたくお断りしています。きれいな花もみんなで採ったら無くなってしまいますし、可愛いからと、人間の食べ物を鳥などにあげると自分でエサを捕れず、自然界で生きていけなくなり、かえって可愛いそうなことになってしまいます。ルールを守って楽しく過ごして下さいね。

発行日：2012年2月1日  
発行：21世紀の森と広場パークセンター  
開館：9：00～16：00  
（3月1日からは9：00～16：30）  
月曜休館（祝日開館/翌日休館）  
〒270-2252 松戸市千駄堀269  
TEL 047-345-8900  
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。



21世紀の森と広場シンボルキャラクター  
ドンちゃん・グリちゃん